



2024(令和6)年度 事業報告

社会福祉法人 善興会 

我が国は、大きな課題である“2025 年問題”に直面しています。

団塊の世代全員が、75歳以上の後期高齢者となり“支えられる側”へ。

北九州市は政令指定都市であるものの、人口流出や高齢化に歯止めがかからず、宮崎・日南市でも過疎化が深刻化、あらゆる産業で人材不足が深刻化しています。

“福祉新時代”を、どう乗り越えていくのか。

高齢者施設が多様化し増加する中で、法人開設から57年を迎える善興会は地域から求められる「安心と笑顔」のため、変革が求められた厳しい1年でした。

2024 年度は、

1. 先を見据え、“選ばれる福祉”に向けた特徴づくり、多様な人材確保
2. DX(デジタル トランスフォーメーション)化で ICT をフル活用
3. 福祉のプロ育成に向け研修機会を増やし「人材育成」へ

以上を重点に、取り組みました。

築20年を過ぎた第三善興園は老朽化も進んでいたことから、“選ばれる施設”となるため、一部を「デンマーク・スタイル」を目指しリノベーションしました。同時に北欧の高福祉を学ぼうとデンマーク在住の福祉家を招聘、講演会には地域住民にも参加を呼びかけ、新たな魅力づくりに務めました。

2023 年度末に全館 Wi-Fi 化が完了し、見守り支援介護ロボットを導入。職員にとっては広いホーム内で効率的な介護が行えるよう環境を整備、DX 推進チームを中心に試行錯誤を続けています。さらに職員の勤怠もデジタル化を図り、リノベや DX 化については動画制作し、YouTube で随時公開しています。

一方「人の手で行う温もりある介護」も継続するため、コロナ禍で中断していた職員会議を再開。課題の共有に加え体位変換や排泄などの研修のほか、高齢部門では“認知症サポーター養成講座”を講師(キャラバンメイト)を招き開催しました。国際福祉機器展の視察など、職員が最新の福祉を学ぶ機会も増やしています。

さらに新たな担い手を求め、インドネシアやタイの日本語学校を直接訪問し面接、初めて外国人材採用を決めました。先を見据えた「人材確保」「人材育成」の両輪で“福祉新時代”を切り拓く、新たな船出を迎えています。

1. 当法人の適切な運営と経営基盤の安定を図るため、理事会・評議員会を開催しました。

2024年5月21日 第1回理事会 14:00~16:00

第1号議案「2023年度事業報告(案)」について

第2号議案「2023年度決算報告(案)」について

第3号議案「2023年度監事監査結果報告」について

報告事項「第三善興園のリノベーション(事務所及びA棟東側)」について

2024年6月8日 2023年度定時評議員会 14:00~16:00

第1号議案「2023年度事業報告(案)」について

第2号議案「2023年度決算報告(案)」について

第3号議案「2023年度監事監査結果報告」について

第4号議案「報酬等支給基準」について

第5号議案「2024年度事業計画及び予算」について

報告事項「第三善興園のリノベーション(事務所及びA棟東側)」について

2024年10月28日 第2回理事会 17:00~18:00

第1号議案「第三善興園リノベーション(A棟西側追加工事)入札報告」について

2024年11月25日 第3回理事会 17:00~18:00

第1号議案「第三善興園電話設備工事入札」について

2025年2月17日 第4回理事会 17:00~18:00

第1号議案「第三善興園脱水洗濯機購入計画」について

2025年3月3日 第5回理事会 17:00~18:00

第1号議案「北郷荘ベッド購入計画」について

2025年3月28日 第6回理事会 14:00~16:00

第1号議案 2024年度第1次補正予算(案)について

第2号議案 2025年度事業計画(案)について

第3号議案 2025年度収支予算書(案)について

第5号議案「リファーマル(職員紹介)採用制度」について

2. 広報&イベント事業

ホームページの見直しや LINE 公式アカウント作成などインターネット活用を積極的に行いました。また機関紙、自主イベントを企画するなどして、地域福祉に関する理解と参加を促進しました。

- ・HP の採用ページを「職員募集」に名称変更し、新卒や求職中の人たちが職種ごとに閲覧できるよう、内容を充実させるなど大幅改訂
- ・第三善興園のリノベーションやDX化などVTR制作(2025年度配信へ)
- ・「ふくし出前授業(皿倉小)」講演:青木隆子理事長
皿倉小の小学生らも特養訪問(2回に分けて来園):花の王善興園
「八見地区社会福祉協議会 福祉協力員等全体研修」講演:青木隆子理事長
- ・大須賀ひでき ギター弾き語りLIVE:花の王善興園
- ・千葉忠夫氏「デンマーク講演会」:第三善興園
- ・各施設機関紙の発行
- ・介護サービス事業者ガイドブック「ハートページ」(広告掲載)
- ・八幡東区老連だより(広告掲載)
- ・八幡東区社協だより(広告掲載)
- ・北九州文学協会作品集(広告掲載)

3. 職員研修など

- ・老人福祉協議会、九州障害者支援施設協議会、国際福祉機器展に職員派遣
- ・毎月第4週目に各施設で職員会議を開催(2025年1月~)
- ・認知症サポーター養成講座(職員受講)をスタート

4. 監査

当法人定款、経理規程にしたがい、監査が行われました。

- ・2024 年度 北九州市一般指導監査 花の王善興園(2024/10/17)
- ・2024 年度 税理士及び監事決算監査(2025/5/14)
- ・2024 年度 税理士監査(本部 2025/4/11)(花の王善興園 2025/4/14)
(第三善興園 2025/4/10)(北郷荘 2025 年 6 月予定)

2024(令和 6)年度 事業報告(案)

特別養護老人ホーム 花の王善興園

特別養護老人ホーム 第三善興園

Ⅰ. 取り組み結果報告(拠点区分共通)

(1) 占床率について

2024 年度の一般入所は、花の王善興園では 87.3% (前年比-5.5 ポイント) となり、前年度から大きく下回りました。

第三善興園では、2023 年度を僅かに上回るペースで推移していましたが、2025 年 1・2・3 月の入院や退所がひびき、92.3% (前年比-0.3 ポイント) に留まりました。一方で短期入所生活介護(ショートステイ)は、89.2% (前年比+8.6 ポイント) と高い利用率を維持できました。

(2) 感染症対策について

手指衛生・マスク着用・換気といった基本的対策に加え、ワクチン接種、一定の面会制限、職員の健康管理を徹底するなど感染拡大防止を継続してまいりました。しかし、新型コロナの感染のほか花の王善興園で感染性胃腸炎、第三善興園でインフルエンザが発生し、コロナ以降他の感染症に罹患しやすくなっているという影響を受けました。

(3) 人材の確保について

両施設を合わせて8人と一定の採用はできました。しかし、離職者も4人おりました。ホームページでの採用ページの刷新や新たな求人サイトでの掲載開始を行い、また、派遣職員を減らし、直雇用者を増やしていく方針をとりつつ、継続的な採用活動を行いました。

花の王 正職・採用3人(介護1人、看護1人、調理1人)

正職・離職1人(介護1人)

第三 正職・採用5人(介護3人、看護2人)

正職・離職3人(介護2人、看護1人)

さらに、実質的な就労は 2025 年度見込みであるものの、外国人介護人材の採用に着手いたしました。

(4) 研修について

10月、九州老人福祉施設職員研究大会が宮崎県で開催され、理事長をはじめ各事業所から5人が参加し分科会に分かれ学びました。

第三善興園でデンマークスタイルのリノベーションが進む中、長年デンマークで福祉と教育に携わっている千葉忠夫氏の講演や第2回ハラスメント研修を開催しました。

その他の虐待防止や感染症対策といった外部研修は、オンラインでの受講が中心となりました。また職員全体の施設内研修としては感染症対策のほか、身体拘束や虐待の防止、リスクマネジメントとして誤嚥の予防など実施しました。

(5) 職員の勤務管理

勤怠管理システム導入を進め、手のひら静脈認証やスマホによる各申請でペーパーレス化、クラウドによる一元管理で働き方改革対応や給与計算ソフトとの連携で、業務の省力化に着手しました。

(6) 職員の健康管理

介護職員の腰痛症検診や、メンタルヘルス不調のリスク低減対策としてストレスチェックを継続しています。

2. 取り組み結果報告（拠点区分ごと）

(1) 花の王善興園

新型コロナについて、2024年度内では3人の発生がありました。クラスターにはなりませんでしたが、2025年1月末から3月にかけて、感染性胃腸炎のクラスターの発生がありました。最終的に20人のゲストが感染性胃腸炎となりました。

全館 Wi-Fi (ICT導入支援事業費補助金を活用) の導入後、特に大きな問題はなく、建物両端の部屋内においても iPad 操作が出来ることから、業務の効率化が図られています。

ショートステイの占床率については、52%（前年度比+2ポイント）と上がりましたが、今後も新規登録者の獲得とリピーターの確保に努めると共に、特養花の王善興園の空きベッド（空床利用）を活用して、さらなる受入れを強化し、施設全体の占床率アップを図ります。

(2) 第三善興園

広すぎる玄関と狭い事務室のセキュリティ面の課題、天井劣化の修復などに対し、いわゆる施設らしくない、自分の家にいるような、ここで暮らしたいと思える場所づくり「デンマークスタイル」をテーマにリノベーションを行いました。

見守り介護支援ロボット「aams」の本格稼働と電話交換機・電話機の更新に伴い、iPhone による内外線通話とナースコール対応を可能にした通信環境を整備しました。将来的にはインカムによる効率的な職員間通話や音声入力による介護記録の作成を視野に入れていますが、現在通信状況に課題が残っており調整中です。

ショートステイについては、定期的な利用者に加え、急な利用申し込みにも極力対応することで本来の事業所の役割を果たしつつ、居宅介護事業所との信頼性の構築や一定の稼働が見込まれるという考えで運営が進んだことで、利用率を高く維持できました。

2024(令和 6)年度 事業報告(案)

善興園デイサービスセンター

Ⅰ. 取り組み結果報告

(1) アクティビティの開発・提供

- ・ウイルス感染症防止対策をしっかりと行いながら、利用者が楽しめる行事の実施を行いました。利用者の高齢化に伴い、歌や簡単な体操・大人の塗り絵等の行事を増やしており、行事内容がマンネリ化しないよう工夫して提供を行いました。2024 年度内に花の王善興園にて開催された、ギター弾き語りコンサート、近隣小学校学生との交流会、クリスマスコンサートなどに参加出来たことで利用者も楽しかったと満足感を得ており、今年度も参加可能な行事には積極的に参加していきます。
- ・気分転換として、ドライブ行事を計画し実施しました。ドライブの実施曜日は土曜日。小倉北区・若松区・戸畑区・八幡西区・遠賀郡・中間市まで移動し利用者に楽しんでもらい、満足感を得たとの声を毎回いただいています。普段は見ない景色や懐かしい景色を見て、会話をしない利用者同士が一緒に参加し、共に会話をすることで社会参加の意欲向上に努めています。
- ・毎週水曜日開催の神原クリニック理学療法士によるリハビリは、参加出来る利用者は参加しています。家でも出来る簡単なリハビリを教わり、普段病院で聞けない事を理学療法士に相談し教えてもらえる事を喜ばれており、参加意欲の向上に繋がっています。

(2) 職員の技術向上や研修会の実施

- ・月 1 回職員間での研修を行い、介護に対する事やウイルス感染症防止対策など話し合い、知識向上に繋がっています。花の王善興園で開催されている職員会議や研修にも参加させてもらい現状把握や知識向上に努めています。

(3) 新規利用者確保

- ・体験利用から利用に繋がる確率は昨年に比べ上がってきています。利用者の高齢化のなか、入所・入院等も続いています。現状利用者数は前年度と変わっていない状況です。継続して居宅介護支援事業所に受け入れ・利用しやすい状況である事を説明し、新規利用者獲得に繋がっていきます。

(4) その他（経年劣化に伴う補修・備品購入）

- ・現存している備品等を大切に使用していき、利用者が過ごしやすい環境作りを継続して行っていきます。

2024(令和6)年度 事業報告(案)

善興会ケアプランセンター・ゴクラク

1. 取り組み結果報告

- (1) 地域包括支援センターや各専門職団体が主催する研修会や委員会に積極的に参加し、介護保険に関する最新の情報を事業所内で適切に共有いたしました。
- (2) 事業所が所在する地域にある、法人外の居宅介護支援事業所や地域包括支援センターハ幡西 2 とともに、定期的に研修企画委員会や事例検討会を開催しました。これにより、地域のケアマネジャーの一員として専門的なスキルを高めるとともに、他機関との交流も広がりました。
- (3) 今年度は、福岡県介護支援専門員実務研修における実習生の受け入れはありませんでした。
- (4) 2024 年 8 月に、F・C フチガミ医療福祉専門学校の社会福祉士養成科の実習生 1 名を受け入れ、ソーシャルワークの指導を行いました。
- (5) 社会福祉士の資格を持つ職員 1 名が、社会福祉士実習指導者講習会に参加し、新たに実習指導者として登録されました。今後はより充実したソーシャルワーク実習の指導に努めてまいります。
- (6) 2024 年度はケアマネジャー 1 名の採用を予定していましたが、居宅介護支援に適した人材が見つからなかったため、今年度の採用は見送り、次年度に引き継ぐこととしました。
- (7) 業務の効率化や職員の処遇改善に向けた環境づくりを計画し取り組んできました。記録整理を目的とした毎月のテレワーク導入はまだ実現していませんが、大雪などで出勤が困難な際にはテレワークを実施し、業務の継続と職員の安全確保に努めました。また、担当件数に応じた処遇についても検討を進めており、具体的な方針は次年度にまとめる予定です。さらに、職員間の連携を円滑にするため、チャットワークの活用を進めています。

- (8) 利用者の確保によって事業所の収入を改善・安定させることを目標とし、各ケアマネジャーが利用者の確保に努め、日々の対応や関係機関への PR を意識して業務を行ってきました。2024 年度は、ケアマネジャーを新たに 1 名採用し、5 名体制で平均 160 件の担当を目指す計画でしたが、実際は 4 名体制でも月平均 159.8 件を確保でき、ほぼ目標を達成することができました。
- (9) 2024 年 8 月から、介護予防支援事業所としての指定を受け、要支援認定を受けた方（※総合事業対象者を除く）と、善興会ケアプランセンター・ゴクラクが直接契約を結び、介護予防ケアマネジメントを行いました。2024 年 3 月時点で 16 名の利用者と契約しています。
- (10) 現在、“ケアプランセンター・ゴクラク”の名称変更について検討を進めており、2025 年度中に新たな名称を決定する予定です。

2024 年度 事業報告（案）

障害者支援施設 北 郷 荘
グループホーム 杉の湯荘
相談サポートセンター 北郷の里

Ⅰ．取り組み結果報告（拠点区分共通）

（Ⅰ） 施設を必要とする人たちの掘り起こし、収支の改善

2024 度は 80.3%どまりとなり、前年度を 2.5 ポイント下回りました。関係機関への広報活動を通して新規の利用者の紹介がありましたが、他害・暴力・暴言などのある支援困難度の高い利用者も多く、新規入所につながるケースが少なく、また入院するゲストも減らせなかったため、収支の改善に至りませんでした。

また、職員の退職により一時的な入所の受入れを調整せざるを得ない状況となりましたが、ゲストの個別状況を踏まえ、可能な限り地域移行を目指しました。同時に職員のバランスを考え、ゲスト・職員のフローア一移動と業務の見直しも行いました。

（Ⅱ） 研修について

9 月、第 41 回九州身体障害児者施設研究大会(熊本大会)が開催され、理事長、施設長、サービス管理責任者、生活支援員 5 人が参加しました。分科会ではテーマごとに四分科会に分かれ、施設の実践発表をもとに、活発な意見が交わされ、実りある討論を行うことができました。

また、宮崎県障害者支援施設協議会の各種研修会や発達障がい支援者基礎講座（Zoom）への参加・受講のほか、虐待防止・身体拘束、感染症対策、ハラスメント防止などの施設内研修を実施しました。

（Ⅲ） 安全管理体制について

宮崎県では 8 月と 1 月に日向灘を震源とする地震と、10 月に大雨による道路冠水が発生しましたが、幸いにも施設への被害はありませんでした。火災については、事業所全体での定期的な通報・消火・避難訓練、消火器・屋内消火栓などの放射・放水訓練を行いました。

また、地震については、停電発生、サッシ（窓ガラス）破損と転倒などによる負傷者対応、LINE WORKS を活用しての職員安否確認を実施し、感染症対策を含めて、事業継続計画（BCP）による訓練・研修を実施しました。

(4) 人材の確保

人材確保については、学校訪問や各種面談・説明会、求人誌、WEB サイトなどによる広報活動に努めました。新卒者は介護福祉士1人、中途採用の介護・調理・清掃・世話人の計6人の入職となりましたが、一方で、ベテラン・中堅職員の退職があり、職員定着への課題が残りました。

(5) 資格取得とスキルアップ

2024年度も資格の取得を推進し、精神保健福祉士（1人）、宮崎県高次脳機能障がい支援者養成研修修了者（1人）、福祉有償運送講習修了者（3人）を取得しました。

2. 取り組み結果報告（拠点区分ごと）

(1) 障害者支援施設 北郷荘

障害者福祉の多機能型事業所として、障害児から障害者と幅広い利用者と家族への相談・支援に努めてきました。地域生活支援拠点等に位置づけられている障害者支援施設においては、ゲストの地域移行に向けた取り組みが求められています。2024年度も可能な限り地域移行への推進に取り組んできましたが、利用者の高齢化や重度化、家族の協力が得られないなどの課題により、地域移行者は3人という結果となりました。また、感染症については、年間を通して数名のゲストと職員が新型コロナウイルス感染症とインフルエンザに感染しましたが、館内のゾーニング、感染対策の徹底の効果もあり、クラスターの発生までには至りませんでした。

(2) グループホーム 杉の湯荘

障害者の地域生活の拠点の一つであるものの、利用者の高齢化・重度化に伴う二次障害や認知症・疾病への対応をはじめ、身元保証（後見人申立て）から日常生活支援、葬送支援などに至るまでの支援に努めてきました。

一方、ゲストの日中活動系サービスや就労（作業所）の利用継続・定着支援のため、関係機関との情報の共有や多方面からの支援にも努めました。

また、補装具費支給制度で個別にオーダーメイドによる車椅子を購入し、（自己負担なし）効果的な介護サービスが提供できるように努めました。

そして、生活環境の整備としては、事業所開設から10年以上が経過していることから、エアコン（1台）を新規購入、ガス給湯器（1機）を取り替えました。

（3）相談サポートセンター 北郷の里

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の障害のある人たちの、自立した日常生活や社会生活を送れるように支援を行いました。

2026年度には日南市にも基幹相談支援センターが設置される計画のなか、日南市（そうだん部会）において、地域生活支援拠点等整備に関する協議を進めてきました。

また、宮崎県障がい者相談支援事業連絡協議会や日南市地域自立支援協議会における外部研修会にも積極的に参加するとともに、高次脳機能障がい支援者養成研修も受講し、新たな加算の算定が可能となりました。

2024年度の障害児の新規の受け入れは3人でした。障害児への支援については、保育所や学校、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関や支援者との継続的な相互連携に努めました。